

平成30年度第3回滝沢市上下水道事業経営審議会会議録

I 日 時 平成31年1月29日（火）午後1時30分～午後3時35分

II 場 所 滝沢市役所防災庁舎2階 201会議室

III 出席者 滝沢市上下水道事業経営審議会委員 出席7名（欠席2名）

【滝沢市上下水道事業経営審議会委員（兼 滝沢市水源保護審議会委員）】

山田 一裕 会長、及川 安 副会長、中村 孝之 委員、反町 久美 委員、
工藤 恒夫 委員、昆野 光子 委員、佐藤 定美 委員

【滝沢市】

滝沢市長 主濱 了

上下水道部（事務局） 部長 太田 城人

水道総務課 課長 阿部 一彦、総括主査 久保 雪子、
主任 櫻岡 湧土

水道整備課 課長 松本 昭彦

下水道課 課長 三浦 信吾

IV 次 第

<委嘱替えに伴う委嘱状公布>

株式会社やまびこ盛岡事務所管理部専門部長 坂井 善隆様の退職に伴い、後任の管理部長中村 孝之様に委嘱替えを行うことについて前回審議会にて報告していたが、欠席していたため今回委嘱状を交付した。

1 開会

2 諮問

市長より山田会長へ諮問文書を交付

3 挨拶

市長挨拶、委員及び事務局の紹介

4 議事

（1）議事録署名人の指名

会長より、議事録署名人に中村 孝之委員、昆野 光子委員が指名された。

（2）会議の公開・非公開

公開とされた。盛岡広域連携ブロック検討会事務部会会員6名の傍聴者が事前入場していることを説明。

- (3) 諮問事項1 滝沢市水道事業経営計画（基本計画）の見直しについて
諮問事項2 滝沢市水道事業中期経営計画（後期）の策定について
（水道資料1）

諮問事項1, 2は関連があることから一括議題とされた。資料の内容について水道総務課長より説明があり、質疑応答が行われた。

【工藤委員】整備計画の年度別事業費のうち、H33年度の事業費が他年度と比べ突出しているのはなぜか。もうひとつ、アンケート調査の満足度という項目の数字は5点満点か。

【水道総務課長】柳沢高区配水池増設を予定しているため、その事業費分となる。アンケート調査の満足度については、5点満点である。

【及川委員】柳沢専用水道については給水区域拡大対象にはなっていないのか。また、その所有権はどちらにあるのか。

【水道総務課長】施設については県が整備、当時の村が引継ぎ、管理を組合へ委託しているため、所有権は市にある。市としては給水区域として含める用意はある。しかし、組合では現状供給コストが低廉なことから、使用料は定額となっている。家畜への使用等使用量が多い事情もあり、市水道への切替が料金面でなかなか難しいようす。引き続き意見交換を進め、お互いにいい形を見出したい。

【及川委員】施設が壊れた場合、所有権が市にあると市が修繕費用を負担することになってしまう。組合側が、施設は市が所有、水道料金は低額の現状を望むのはわかるが、このままでは、専水施設修繕のために専水使用者ではない方々の税金を使って負担することになる。これは不公平ではないか。施設所有権も組合へ、というのもひとつのやり方ではないか。

【水道総務課長】ご意見を踏まえて内部検討していく。

【山田会長】受益者が適正に負担するよう、今後議論を進めてください。

【佐藤委員】アンケート結果について、居住年数が長いほど満足度が高いとなっているが、長く住んでいる方は昔に比べれば良くなった、ということではないか。年数が短いほど満足度が低いのは、他自治体からの移住者が移住前と比べて満足していないとも考えられる。目標をどこに置くか、という問題もあるが、水質レベルについては今後も追及して行ってほしい。

【水道総務課長】当方の分析では、居住年数が短い方は新築住宅に住んでいる可能性が高く、新しい管内の油分等が残り、味を損なっている可能性も考えられる。そういった情報の提供についても今後検討していく。

【工藤委員】市内に柳沢専用水道以外の専用水道地区はあるのか。また、水質の話題が出たが、自身は3年前に転勤で近隣都市から巣子へ移住しているが、滝沢の水道はおいしいと感じている。

【水道総務課長】市内の専用水道は、柳沢以外には農業高校、自衛隊がある。

【山田会長】関連して、後期経営計画の「目標とする指標」の中に、未実施となっている貯水槽水道への指導を盛り込まなくてよかったのか。水道水質への不満意見は、貯水槽水道の管理に起因するものも考えられる。例えば、アンケートの中で

貯水槽水道利用者との対比が出来ればよいのではないか。

【水道総務課長】受水槽との区分けはしていなかったため、今後検討していく。実際に受水槽管理に起因する水質事故は発生していないが、前期経営計画にて3年間で全箇所を回る計画が実現していないことから、後期は優先順位をつけて効率よく指導していく計画に見直していく。

【山田会長】「目標とする指標」に実施件数や実施割合を盛り込まないのか。

【水道総務課長】達成状況を確認できるような数値化を検討する。

【山田会長】重点施策の中の料金徴収業務民間委託や、下水道課職員との事務連携、技術系職員の適正配置などの項目はどのように評価を行うのか。

【水道総務課長】下水道課職員との連携については、現在相互に総括主査を兼務発令としている。片方が異動しても相互にフォロー可能な状態にすることで、事務連携は達成していると考ええる。

【山田会長】アクションとしてはそうだが、結果的に兼務により人材としての能力が幅広くなった、上がった、業務効率がよくなったといったことがわかる指標はないか。必ずしも数値でなくともよいが、評価をしなければならない。事務効率改善の結果を踏まえて、後期計画策定に反映するのだから。民間委託についても同様、どこが効率化されて費用対効果につながった、というのを評価、整理したものを知りたい。

【水道総務課長】民間委託についての項目もアンケートに盛り込まれているが、開所から間もないこともあってか、開所後満足度が向上したというようなわかりやすい結果は得られなかった。例えば、苦情件数割合であるとか、PIを使って評価可能かと考える。

【山田会長】後期計画終了時に成果をまとめる際に客観的評価を行うことを見据えて情報を整理されることを望む。

【及川委員】水源について、地下水比率を97%から98%に上げることが目標設定されているが、地下水源に万一トラブルがあった場合の保険も必要と思うが、問題ないのか。

【水道総務課長】骨子案では、大湧口水源と岩手山水源、あるいは一本木配水系統と柳沢配水系統の連絡管整備を行うこととした上で、最終年度の34年度には諸葛川水源とする柳沢低区浄水場を廃止することとしている。ただ、職員常駐、監視中枢となっている滝沢浄水場では、有事に備え表流水の浄水処理可能な状況を継続していく。今後盛岡広域の連携の中で連絡管整備を増やすなど、相互融通手段が増えていけば滝沢浄水場での表流水浄水処理機能についても廃止する可能性もあるが、次期経営計画以降での検討となる。

(4) 審議事項1 財政の収支見通しについて

(水道資料2)

資料の内容について水道総務課長より説明があり、質疑応答が行われた。

【工藤委員】国庫補助金についてはずっと未計上だったということか。

【水道総務課長】今後の財政計画上収入に見込んでいない。今までには一本木簡易水

道事業においては要件を満たしたものは計上されていたが、水道事業においては
ない。

【山田会長】消費増税時の対応はどのようになるか。

【水道総務課長】一般会計と一緒に条例改正を予定し、別途10%消費増税として見直しをかけていきたい。

(5) 審議事項2 滝沢市水道料金算定要領(案)について

(水道資料3)

資料の内容について水道総務課総括主査(以下、水道総務総括)より説明があり、
質疑応答が行われた。

【及川委員】基本水量5m³を廃止する場合、5m³以下の利用者の料金が激変しないよ
うに配慮、とあるが、対象者はどのくらいいるのか。

【水道総務総括】多くはメーター口径13mmの利用者が対象になる。13mmのう
ちの4割程度の方が5m³以内で使用しているようです。

【及川委員】実態としてはアパートの管理用水栓などにあたるのか。

【水道総務総括】栓数が限られることから、畑などの散水栓や事務所などの2、3栓
だけの使用が想定される。

【及川委員】生活困窮世帯などが対象となるようであれば配慮が必要になるが、そう
いった用途であれば激変緩和措置は不要ではないだろうか。

【山田会長】激変緩和措置を考慮する場合としない場合で、どの程度料金の差が出る
のか、案を示しての検討が必要。

【及川委員】対象世帯の使用実態についてもある程度データが欲しい。

【水道総務総括】次回審議会でお示しします。

【中村委員】13mmの利用者は全体の使用者のうちどのくらいの割合にあたるのか。

【水道総務課長】件数でいえば、月間3,400件程度、20mmは16,000件
程度となっている。(全体で約21,000件のため、約16%)

(6) 報告事項1 広域連携に係る検討結果の公表について

(水道資料4)

資料の内容について水道総務課長より説明があり、質疑応答が行われた。

【及川委員】矢巾町の給水原価が安いのはなぜか。

【水道総務課長】推測にはなるが、減価償却費が安いのではないかと。

5 その他

事務局より、今後の審議会開催スケジュールの確認、説明を行った。詳細について
は追ってご通知申し上げます。

6 閉会

上下水道部長より挨拶